

第153回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日 時 令和元年10月15日(火) 午後3時～午後4時半
場 所 503議室
出席者 7名
 峯岸正雄、芝勝治、友國洋、小林新、高橋勝緒、高橋絹世、渡辺康三
傍聴者 なし
事務局 環境課 課長 亀井、主幹 加藤、塩野

1 開会

- 峯岸会長から開会のあいさつ
- 人事異動による課長交代のあいさつ(環境課)

2 議題

(1) 第2次和光市環境基本計画実行計画改訂版に係る平成30年度実施状況の点検・評価について

事務局より平成30年度の重点取組について総括的な説明を行った。その後、その中の「望ましい姿1 豊かな水と緑を守り育み伝えるまち」の項目を中心に活発な意見開示が行われた。

- ・この重点取組の資料は環境課が庁内の事務局として取りまとめてこれを出しているのか。重点取組は庁内で共有されているのか。→(事務局)環境課の方で各課の実施状況調査の取組内容から重点と思う取組をまとめている。
- ・生け垣設置奨励補助金の制度を再開したとのことだが、望ましい姿1の重点取組としては、レベルが違う話なのではないか。→(事務局)今後活用促進に力を入れていきたいという観点から記載している。
- ・各施策を網羅的にすべて同じ重さで考えるのでは困るという意見を市民会議として以前から訴えている。
- ・昨年実施した事業の中で、和光のトラスト制度についてみんなで考えようというセミナーを環境課や都市整備課、教育委員会と協力して開催した。なかなかそれが結果にはつながらないが、トラストという言葉もだいぶ出てくるようになったし、それを将来につなげていきたいという思いがある。
- ・土地所有者の理解と協力を得ながらとあるが、土地所有者の中にも理解がある人はいるだろう。せつかくの緑地を市がお金がないと言って買わないから開発されてしまうことになる。
- ・市の厳しい財政状況の中でどうやったら公有地化に伴う財源を確保できるのかということを検討して、得られた結果というのをもう少し具体的にここで示していただきたい。→(事務局)この重点取組の記載のもととなるのが平成30年度実施状況調査票であるが、成果を示せる状況にはなく、調査票に記載していないため、重点取組にも記載していない。

・何年か前に話したが、お金がないときに新しい緑地が出てきたような場合に、すぐ購入できるよう事前に議会に了解を得ておくとか、国や県に補助金の制度を作るよう依頼するとか、そういった働きかけをするのも方法の一つだと思う。そういう働きかけをしてそれでもだめだったらだめで、そういうデータを持つのも大事だと思う。お金の面にかかわらず実行できる仕掛けを作っていただきたい。

・若い人たちは、和光は都心と少し違って緑地や湧水があって、そういうところがいいよねという感覚をたくさん持っているようだ。そういう点でも財源がないということで終わらせないで、何とかその中で若い人たちが望んでいるように緑を残してほしい。例えば横浜では環境税というような形でお金を集めている。課税に対し合意を得ることは大変だが、環境課や都市整備課の所管に関わらず、もっと広く考えると、意外と緑や湧き水の大切さを自覚している人は多いので、そういった人たちを強力に引き込むような作戦が必要だという気がした。そういったところも考慮して、言葉の表現だけでももう少し積極的にやってもらいたい。

・我々はこの会の会員としては長すぎると思っている。ぜひ新しい方に入っていただきたい。

・いろいろな意見が出た。緑と湧き水をどのように守るかということは難しいテーマであると重々承知しているが、何とか少しでも前に進んだらということで力を合わせていきたい。

3 閉会